

科学館協議会議事録

会議名	平成26年度 第3回科学館協議会
期 日	平成27年1月24日(土) 午後1時30分～3時20分
出席者	和泉眞喜子, 伊藤任佐子, 大草芳江, 菊地崇良, 小松尚哉, 田中眞美, 鶴谷研, 寺前紀夫, 長瀬敏郎, 樋口和美, 平吹喜彦の11委員 館長, 副館長, 庶務係長, 主任指導主事, 指導主事2名, 主任
次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 科学館長挨拶</p> <p>3 会長挨拶</p> <p>○寺前会長が議長となり, 議事録を公開することとし, 会議を進行した。</p> <p>○議長より, 議事録署名人に菊地委員を指名した。</p> <p>4 議 事</p> <p>(1) 平成26年度事業実績及び平成27年度主要事業(案)について・・・ 中澤主任指導主事から資料1及び資料1-2に基づき説明した。 (質疑)</p> <p>菊地委員・・・実績については昨年に比べて参加者が多くなったということ ことで素晴らしいと思っております。これは皆様のご努力の結果だと思しますので, 心から御礼申し上げます。 入館者の実績数には学校教育事業や連携事業の人数は含まれて いますか。</p> <p>中澤主任指導主事・・・基本的には展示を見学している方々ということにな りますので, 科学館学習には展示の学習もあり, 展示を見 ているということで含めております。連携事業の参加者も 含めております。</p> <p>菊地委員・・・学校教育事業, 社会教育事業, 連携事業の昨年と比して動 態はどうだったのかということに関心があります。それか ら, ネットワークへのアクセス数も例年と比してどうだっ たのかということをお聞きしたい。</p> <p>中澤主任指導主事・・・アクセス数は, 今年12月までで249,000件ですが, 昨年同期の数字は今手元にはないのですが, 一年間で</p>

	<p>340,000 件位ありました。若干減っているのかとは思いますが。</p> <p>菊地委員・・・来年の事業を作るに当たって、どこに焦点を合わせるのかを踏まえてやっていると思いますが、インターネット普及の時代の中で、なぜ逆行しているのか。新年度の事業展開なり広報するうえで大事なところだと思ったものですからお聞きしました。</p> <p>中澤主任指導主事・・・正直申しまして毎月のアクセス数の増減について詳しく見ていないのですが、見やすい、使い勝手の良い、役に立つコンテンツを増やしていく必要があると思います。</p> <p>菊地委員・・・動態調査によって、弱点をどうするのか。また、在宅で社会教育施設を活用したい人をターゲットにするのかなども今後検討していただければと思います。</p> <p>会長・・・アクセス数はトップページへのものですか。慣れてくると自分が行きたいページへ直接行くこともありますか如何でしょうか。</p> <p>館長・・・ページごとのアクセス数も分かると思いますので解析調査を深めて事業に生かしていきたいです。</p> <p>菊地委員・・・来年度は仙台市の震災復興計画の最終年度であり、もうひとつは12月の地下鉄東西線開業というこの大きな変化を踏まえて、科学館としてどう発信するのかをお聞きしたい。平成27年度の事業の中に入ってきておりませんが、交通局と協力して、地下鉄利用者への割引などで来館者を増やすというのはいかがでしょうか。</p> <p>中澤主任指導主事・・・夏には水族館が出来ますし、市内で大きな変化があります。まだ具体的に館内で話を詰めていないのですが、それらに合わせた事業展開が出来たらいいと思っております。ただ、割引制度は科学館の規則もありますので、それに合わせながら考えていきたいです。</p> <p>館長・・・市の社会教育施設なので単独で割引制度というのはないと思います。地下鉄ということでは一番影響があるのは博物館だと思いますが、もしやるのであれば博物館と一緒にということになると思います。現在、割引制度が色々あり、整理しながら考えていければと思います。</p> <p>菊地委員・・・市民に恩恵があるように交通局と提携していただければと思います。</p>
--	---

館長・・・検討いたします。

大草委員・・・科学館でこれまで地域の色々なものを収集され展示されてこられたと思います。科学館に行くと、地下鉄駅の近くの関係のあるものが展示されており、もっと深く知ることが出来るというように、東西線開業に合わせて連携をし、普段来館されない方も来るきっかけになればと思います。

中澤主任指導主事・・・仙台駅に化石の展示を科学館が計画しております。竜の口層のものですが、工事中も出てきております。この展示なども活用した誘導策を検討していきたいと思っております。

菊地委員・・・仙台の地下鉄は日本で最先端のリニアなので、リニアのしくみを解説するコーナーなどを、12月6日の東西線開業に合わせてやっていただきたい。交通局で地下鉄の展示場を作ればよろしいのですが、そこまでは出来ないという苦しみもありますので、その受け皿の部分もあるとよろしいと思います。

館長・・・実は今年の2月の科学工作教室で「リニアモーターを作ろう」というのがあります。それから、3階の展示に理科作品展に出品された、生徒さんが作ったリニアモーターもあります。関連づけるようなことをぜひ考えていきたいと思っております。

伊藤委員・・・今年度も特別展のチラシをのびすくで配布いたしました。子どもたちの反応が良く、とても楽しみにしている様子で、来館者が多いただろうと思っておりました。特別展の企画はどういったことで決まってくるのか教えてください。

中澤主任指導主事・・・恐竜と昆虫は大変人気が高い。だからといってテーマが偏って毎年やるということがないようにしております。色々な分野に興味を持っていただきたい。今、興味がなくても、非常に有用な分野があるというご紹介を含めてやっていかなければならないと思っております。他館のテーマを調査したり、過去のテーマや協力が得られる団体があるかなど総合して考えております。来年は今まで我々が踏み込んでいなかった、スポーツと科学の分野にトライし、今まで科学に興味がなかったんだけどスポーツを通してなら科学に触れてみたいという方々にも楽しんでもらいたいです。

伊藤委員・・・動物園や天文台には面白そうな情報誌があるのですが、科学館にはないので、興味のない方も行ってみたいくなるようなものがあつたらいいと思います。

館長・・・・・・科学館の顔になるようなものが必要だと思いますので長期的な課題として検討していければと思います。

(2) 平成27年度科学館特別展(案)について・・・

宮崎指導主事から資料2に基づき説明した。

(質疑)

会長・・・・・・車いすの展示も、陸上用などの距離のものと、テニスやバスケットなどの球技用などのように、2種類以上あると違いが分かりやすいですね。

菊地委員・・・・市民局や健康福祉局との連携はあるのですか。イベントでは実際選手に来てもらっても面白いのではないのでしょうか。

宮崎指導主事・・・・障がい者福祉団体とか健康福祉局とはまだコンタクトをとっていませんが、パネルや義足は貸し出してくれるところがあり交渉を進めています。今後車いすを借りることになりますので、福祉関係の部署にも相談していかなければならないと思っておりました。イベントについては市民局スポーツ振興課とも連携していきたいです。

小松委員・・・・スポーツというとプロにいしがちですが、車いすバスケットの宮城マックスなどアマチュア、特に障がい者スポーツにも目を向けていただきたい。

宮崎指導主事・・・・車いすバスケットの車いすの紹介や講演会とかを考えていきたいです。

田中委員・・・・科学の進歩に入ってくると思うのですが、スポーツに伴って、計測とかカメラもすごく進化しているというのを見せていただけるといいと思います。

宮崎指導主事・・・・モーションキャプチャーとかフォースプレートシステムなどを予定していたのですが、非常に手間が掛かってしまうので、解析度カメラで「自分のフォーム撮って再生してみよう」というようなことを進めてみたいと考えておりました。ただ、「最新スポーツ科学」のところでモーションキャプチャーなどをパネルで紹介できればと考えております。

田中委員・・・それとはちょっと違って,たとえばサッカーでカメラの見せ方で面白くなっているというようなスポーツの見せ方とかの紹介もあったら面白いと思います

館長・・・・まさに興味深いところです。各大学にも協力を呼びかけておりますのでそういった中で実現できるか考えていきたいと思ひます。ただ,今,色々アイデアを出しているのですが,スポーツは広がりが大きく,限られた面積の中で絞り込んでいくという段階でもあります。そのへんでまたご意見を含めながら検討させていただきたいと思ひております。

長瀬委員・・・体験コーナーは混みませんか。並んでいる間に子どもたちに考えさせてアレンジさせるような,待っている時間も面白いように出来るといいですね。
あと,モトクロスバイクのチャンピオンが宮城県におりますので,バイクは科学そのもので,モトクロスバイクの紹介なども検討いただければと思ひます。

会長・・・・待ち時間が心配ですね。待っている間も何か学べるようなものがあるといいですね。

宮崎指導主事・・・体験場所の近くに動画やパネルでその運動のしくみを学ぶということを考えておりました。

和泉委員・・・食事というのはスポーツと栄養ということでしょうか。

宮崎指導主事・・・・ジュニアとプロ選手の栄養の必要量とか,その比較などの展示です。

和泉委員・・・・技術力の向上には必要なことなので,ぜひ子どもたちに見ていただきたいです。

大草委員・・・・特別展のタイトルは今仮称がついていますが,ネーミングが大事だと思ひますので,「メカニズムを知ったらスポーツももっとうまくなれるかも」とか,心をくすぐるようなものを付けたらよろしいと思ひます。

宮崎指導主事・・・・いいネーミングになるよう努力します。

(3) 平成27年度科学館学習の授業開発について「地学分野」(案)・・・
中田指導主事から資料3に基づき説明した。

(質疑)

樋口委員・・・・もっと気象に興味を持ってくれる人が増えるといいと思ひておりましたので,ぜひやっていただきたいです。温度差の

ところで、装置の中に海や砂浜などを入れるなど具体例に結び付けられるものがあると思います。

小松委員・・・気象観測は継続観測が大事なので、子どもたちに測らせているのであればそれを蓄積して、たとえばインターネットで配信し、「君たちが観測したのはここだよ。次の中学校はここだよ。」というふうにつなげて、変化していく様子をみたり、実際の公開されている天気予報とどう違うか比較したり、せっかくのデーターなので広く活かせると思います。そうすると科学館のホームページも、子どもたちは見てくれるかなと思います。

中田指導主事・・・連続性がないかとも思ったのですが、せっかく取ったデーターは活かしたいので考えていきます。

中澤主任指導主事・・・科学館の「お天気アイ」で数校のデーターも測っていますのでそれと比較するのもいいですね。可能性を探りたいです。

長瀬委員・・・コリオリの力は大学の地学実験でもしますが一回では理解できません。大学生でも理解するのが難しいので、コリオリの力はここで学習しなくてもいいのではないのでしょうか。「気圧の差で風が吹き、その気圧の差の原因のひとつは温度の差である」ということを学習した後にコリオリの力を学んだ方がよろしいのではないのでしょうか。それからもうひとつ教えて欲しいのは、気圧の高い所、低い所は実際どこを指しているのか結び付けて欲しい。宮城県の山の所なのか海の所なのか、大陸を指しているのか、海はどこなのか、実際の現象と照らし合わせて欲しい。

伊藤委員・・・仙台はなぜ風が強いのかとか、仙台と風というのはどうでしょうか。

中澤主任指導主事・・・スケール感というのは子どもたちがつかみきれない地球規模のものから地元のものまで、気象の現象をどう説明するのかということに関わってきます。一般化した方がいいのか、特異性を追求した方がいいのか、整理をしていきたいと思います。ただ90分という時間なので、大きなテーマで3つ位実験をして、子どもたちに考えさせる時間を持たせるとなると、優先順位を決めて、どこを確認していくか今後また詰めていかなければなりません。

5 事務連絡

事務局と会長で協議の上、次回の開催日程を決定することになった。

6 閉会

平成 年 月 日

議事録署名人

科学館協議会 会長

印

科学館協議会 委員

印